

記録

と

近年、技術の進展により、さまざまな情報を記録し、保存することが可能になりました。ビッグデータやクラウドという言葉で示されるように、個人の情報だけでなく、組織や社会までも対象とした記録がなされ、その情報が活用されるようになりました。また、東日本大震災による津波によって多くの大切な品が流され、人にとって大切なものは何かということであらためて考えさせられる機会がありました。このように技術によって様々なことを保存することが可能になった現在、私たちは、自分の思い出のために、あるいは未来の社会のために何をどう保存していくことができるのでしょうか。

小さな試みとして、私たちは、9年前にタイムカプセルを作りました。ワークショップ「未来の思い出を作る—タイムカプセルをつくる」(2003年11月16日、東京西新宿・NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、イベント「記録と表現—アーカイブを作る、使う」(2003.10.10~11.24の企画の一部)で封印したタイムカプセルを2012年11月18日(日)午前が開封します。

この開封に併せて、「思い出」と「記録」に関する話題を議論するシンポジウムを開催します。本シンポジウムによって、思い出とは何か、何を残しどのように保存するのか、それをどのように活用できるのかを考えていきたいと思えます。多くの方の御参加をお待ちしております。

(またシンポジウム終了後には、希望者により再びタイムカプセルを作成するミニワークショップの開催を予定しています)

シンポジウム参加費：1000円(記録集・発送費含む)

講演

「基調講演：ライフログとデジタルミュージアム」

廣瀬通孝 (東京大学大学院教授)

「思い出はどこに行くのか？ ソウルスタイルから10年経って」

佐藤浩司 (国立民族学博物館民族社会研究部准教授)

「語り・技術伝承のためのアーカイブについて」

檜山敦 (東京大学大学院特任助教)

「残す思い出、残さない思い出」

加藤ゆうこ (CDI 主任研究員)

「9年間保存したタイムカプセルでわかったこと」

記録と思い出シンポジウム実行委員会

全体討論

「思い出は『語り』だけで充分なのか？」

講演者、参加者による



記録と思い出シンポジウム実行委員会：
NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] の2003年のタイムカプセルを作るワークショップ関係者を中心に有志により発足。当時のワークショップの中心人物である野島久雄教授【故人】の遺志を引き継ぎ、タイムカプセル開封式の開催およびタイムカプセル(事業)の継承、また学術的にその価値の検証を行うことを目的としている。

シンポジウム

『タイムカプセル』を手がかりとして

2012年11月18日(日) 13:00~17:30 成城大学 3号館 321教室

<http://www.tokinokikai.jp/symposium/> e-mail: entree@tokinokikai.jp

主催：記録と思い出シンポジウム実行委員会 協賛：日本バーチャルリアリティ学会・日本認知科学会

思い出